

平成 29 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 友之会

平成 30 年 3 月 31 日

◆活動成果

平成 29 年度も引き続き法人認知度向上、協力者、賛同者および利用登録者の増加を目標にし、多くの方々に支えられながら継続的な活動を行いました。

高齢者の生活するうえでの問題（相談・依頼・困りごと）を解決しながら、精神的、心理的支援に重点を置き取り組みました。利用者登録は昨年同様の利用者（39 名）を維持することとなりました。

高齢者（生産者）から余剰の野菜を取りまとめ、消費者地域（障がい者施設）に搬送し農作物を捨てることなく販売先を作る「野菜の生産・販売を通じた生きがい支援事業」では、引き続き「神戸ライフケア協会（ジャングル）」「木の芽家族会」に野菜のコーディネートを行いました。

新しい活動として、障がい者の地域居場所づくりに寄与している「サンデーカフェの会」に 1 2 月から野菜のコーディネートを行いました。

この事業においては、「寄付がつながるひと育てるまち-Tani matching」のプレゼンテーションに参加し寄付金を受託することができました。また、「コープこうべ虹の賞」奨励賞受賞する事が出来ました。

- I. 第 2 回「寄付がつながるひと育てるまち-Tani matching」にて寄付金受託
(平成 29 年 12 月 13 日 プレゼンテーション参加)
- II. 第 26 回「コープこうべ虹の賞」奨励賞受賞
(平成 30 年 2 月 2 日 授賞式参加)



▲ I. 投票の様子



▲ II. 授賞式の様子



(1) 高齢者の自立及び社会参加支援事業

- ① 電話によるコミュニケーション、訪問による直接会話を実施しました。楽しく明るく送る生活として食事やカラオケの企画、日常の不便を解消するために通院、買い物の同行、必要品の訪問時買い届け等々を引き続き行いました。

- ② 利用登録者が一緒になる場面が多くなったことで、電話番号を知る機会が増え、相互のコミュニケーションが活発におこなわれるようになりました。
- ③ 高齢者（野菜生産者）の余剰野菜をコーディネートすることにより、販売者（障がい者施設）と地域住民との交流がスムーズにいく事が出来ました。

(2) 野菜の生産・販売流通を通じた生きがい就労支援事業

登録利用者は就農経験が多いため、自己食料ぶんとして生産した余剰野菜を障がい者就労支援施設に提供し、それぞれ（高齢者・障がい者）の以下のとおり就労支援を行いました。

- ① 業務内容：野菜の生産・流通を通じた生きがい就労活動及び社会参加活動
活動期間：平成 29 年 4 月 3 日～平成 30 年 3 月 26 日まで

全 60 回実施 参加延べ人数約人 1,800 名（毎回概ね 30 名参加）
スタッフ 2～3 名による稼働

就労支援施設への野菜コーディネート

活動内容	活動月日
神戸ライフケア協会 (ジャングル)	4/3、10、17、24 5/1、8、15、22、29 6/5、12、19、26 7/3、10、24、31 8/7、 14、21、28 9/4、11、25 10/2、16、23、 30 11/6、13、20、27 12/4、11、18、25 1/15、22、29 2/5、19、26、27 3/5、12、 19、26
木の芽福祉会家族会支援	4/9 6/11 7/9 8/13 9/10 10/8 11/12 2/11 3/11
サンデイカフェの会	12/24 1/28 2/25





▲アでの野菜販売は今年度で終了

▲ジャングルのチラシ



▲木の芽福祉会 野菜展示の様子



▲野菜以外の加工商品等

② 業務内容：収穫体験コーディネート

活動期間：平成 29 年 10 月篠山市枝豆収穫 11 月枝豆葉落とし 5 回実施
参加延べ人数 55 人

篠山市農園（枝豆収穫・葉落とし）	10/5, 12、22、26、11/16
------------------	----------------------



▲枝豆収穫参加者の方々

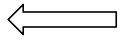


▲黒豆にする前の葉落としの様子



◎丹波の黒枝豆の特別販売チラシ

精神障害のある本人や家族が安定した地域生活
が送れるようにサポートする団体と、連携をはかりました。



③ 業務内容：地域イベント参加活動

活動期間：平成 29 年 10 月 全 2 回実施 参加延べ人数約 280 人
スタッフ 3 名による稼働

会場	会合名	参加日
神戸市立地域人材支援センター	ハートフェスタ 2017	10/14
御影北地域福祉センター	公園のあかり（秋祭り）	10/14

■ ハートフェスタ 2017



▲ イベントの様子



▲ 野菜の展示販売の様子

■ 2017 みかげスイーツロードと公園のあかり



▲ 神戸ケアライフ協会と合同参加

◆ 結果と波及効果

高齢者（生産者）は新たな野菜栽培や加工品にチャレンジし、自分たちの野菜が商品になることで、生きがい支援へとつなげていく事ができました。それによって、健康維持に大いに役立ち、一次予防（引きこもり・認知症・介護）になり、孤立防止にも役立つ

ちました。

障がい者施設（消費者地域）は少量でも低価格で購入し、地域住民に安心して低価格の野菜を提供することによって地域（消費者）との交流が出来、相互の理解を深めることも出来ました。

障がい者からは、多くの人々と関わりを持つことで、家族との会話も増え気持ちが前向きになり、以前より笑顔が増えたと感じているという意見もあり、大きな成果が得られました。就労支援訓練にもつながりました。

高齢者、障がい者、地域住民など多くの人に関わる事によって、それぞれの個性を理解し、自然に役割の生まれやすい環境を作り出すことができました。高齢者、障がい者が支援を受けるだけでなく、「支え手」となり、地域コミュニティへ参画することが出来ました。

次年度は生産高齢者とともに野菜の苗付け、シイタケの菌打ち等、また収穫作業を一緒に行い販売に繋げていく予定です。（※年度末に視察も行いました。）

これからも、事業を通して地域の繋がりや輪を広げていき、多様性の相互理解を深めていくように努めてまいります。

※年度末の視察の様子



▲地域の高齢者と一緒にシイタケの菌打ち



▲ブロッコリー畑の視察



▲じゃがいもの苗付け